



雪も氷も、私たちの身近にある物質です。

化学式で表すとH₂O、つまり水素原子2個と酸素原子1個が結びついたシンプルなものですが、南極や北極では氷床という巨大な塊となってその存在感を誇示しています。地球全体の氷のほとんどは南極や北極に集まっていますが、もともとは永い年月をかけて降り積もった雪が氷に変わったものなのです。

水や水蒸気に比べると一見動きが鈍い氷ですが、長い時間をかけて大地を覆い、谷を刻み、最後は海に流れ込んで水に戻ります。またそれが水蒸気となって空気中に漂い、そして極地方では雪となって地上に降り積もって再び氷になる・・・このサイクルが過去数千万年以上にわたって繰り返されてきました。

今回の夏の企画展示「雪と氷の大ぼうけん～雪と氷のひみつ～」では、雪と氷が自分たちの秘密を語ります。

南極や北極の氷は、過去の空気を閉じ込めたタイムカプセルです。ホットな夏の日、この空気が弾けるプチ、プチという音に加えて、地球の歴史とともに歩いて来た雪や氷からのクールなメッセージに是非耳を傾けてみてください。

コップの中で静かにとけていく氷と違って、南極や北極の氷には地球環境を操るとてもないエネルギーが隠されていることをご理解いただけたらと思います。

2018



国立極地研究所
広報室長(当時) 本吉 洋一

ようこそ！

国立極地研究所南極・北極科学館

夏の企画展示「雪と氷の大ぼうけん～雪と氷のひみつ～」

